

安全・衛生・教育・保険の総合実務誌

# 安全スタッフ

## 特集

機械の本質安全化を建設業に応用

成果見せるスリーステップ・メソッド

飛島建設

## ニュース

安全コストの「明細表」作成

建災防 作業工程ごとに費用を分類

空調衛生設備の現場は、今

全員発表のグループ討議で

盛り上がる安責者教育

朝日工業社

WEB版はカラーでご覧になれます!!

WEB登録(無料)のお問い合わせは

 0120-972-825

メルマガも配信中です!

No.2188

2013

6 / 15



## 社労士が教える

# 労災認定の境界線

<執筆>

一般社団法人SRアップ21山形会  
社会保険労務士西村事務所

所長 西村吉則

第155回

業務以外の除雪作業を行った製造工が転倒し右ひじを骨折

### ■ 災害のあらまし ■

Y社は、機械器具製造業を営む会社である。積雪地域に所在するY社は冬期間、会社敷地などの除雪を業者に委託していた。大雪注意報が発令されていたある朝、予報以上の積雪のため、委託業者による除雪が始業時刻に間に合わなかった。そこで数人の社員で、社屋に接する歩道の雪かきをしていたところ、社員Aが誤って転倒し、右ひじを亀裂骨折してしまった。会社は、除雪を業者に委託しており、雪かき作業を社員に直接指示することはなかったが、冬期間に数回、今回のような想定以上の降雪があった場合、慣例として若手社員が雪かきを行っていた。

### ■ 判断 ■

製造工として勤務している社員Aの本来の担当する業務以外の行為にあたる除雪作業が、会社の特別な命令もなく慣例として行われている最中に起きた災害であるが、通常、業務に付随するとみるべき行為として、業務遂行性および業務起因性が認められ、業務上と判断された。

### ■ 解説 ■

労災保険においては、業務災害および通勤災害を保護の対象としている。

業務災害とは、労働関係から生じた災害、すなわち労働者が労働契約に基づいて使用者の支配下において労働を提供する過程で、業務に起因して発生した災害をいう。労働者が使用者の支配下にある状態を業務遂行性といい、業務に起因することを業務起因性という。業務遂行性がなければ業務起因性も成立しないが、業務遂行性があれば必ず業務起因性があるとは限らない。と

ここで、労働者の労働時間中の行為ないし行動は、全部が全部本来担当している作業ばかりとはいえ、作業前の準備行為や他部署への応援行為または私的な行為など、さまざまな行為や行動が混在し構成されているのが通常である。

ある行為が、事業主の特別の業務命令などにより積極的に是認されている場合には、その行為自体が担当する業務行為となる。しかし、事業主からの積極的な業務命令を受けていない場合には、次のような見地から本来の業務にあたるかどうか、または業務に付随した行為かどうか判断されることになる。

①合理的行為（その業務を担当する労働者として、当然または通常行うことが予定されている、あるいは予想される行為）、②緊急行為（業務と関連する突発的事情あるいは緊急の事態に遭遇し行われる行為）、③準備・後始末行為（労働時間の前後において、その業務に付随して行われる行為）、④生理的必要行為または反射的行為（厳密には、それが私的な行為としても、その業務に従事する労働者として、業務に臨むにあたり、通常ありうる行為、または避けることができない行為）、⑤前記①～④には直接該当しないが、なお、業務に通常付随するとみるべき行為については、業務上外を認定するにあたり、本来担当する業務と同様に取り扱うとしている。

今回のケースは、⑤の業務に通常付随するとみるべき行為に該当し、業務災害となる。

つまり、社員Aは会社からの直接指示命令はないものの、慣例となっている雪かきを行っている際に転倒したもので、雪かきの必要があると思われる程度の積雪があれば、それを行うことが業務の一環として位



置づけられ、なおかつ、雪かきをする担当者が暗黙の了解のうえ想定されているのであれば降雪の都度、会社の指示がなくとも、業務遂行性が認められることになる。また、被災した場所が歩道にあたるが、これは、会社に入出入りするために必要な常識的な範囲内であれば、通常業務に付随する行為を遂行中に被災したことになる。

山形県のような積雪地域において、12月から3月までの冬期間、凍結や積雪などの原因による転倒災害や交通事故などの冬期特有の災害が多発する。冬期特有の労働災害減少のため以下のような取組みが必要となる。

①気象情報を迅速に把握し、状況に応じた作業計画などの作成・見直しを行う。②滑りにくい履物の着用の徹底や凍結した路面などで、荷物を担いだり、手持ち運搬をしない。③雪下ろし作業は、親綱などを設け、安全帯、保護帽を着用する。④交通労働災害防止のため、速度は控えめにし、車間距離を十分にとる。また、急ハンドル、急ブレーキは使用しない。⑤自然換気が不十分な場所では、内燃機関、練炭コンロなどを使用しないなど、一酸化炭素中毒などに注意を払う。